

②

③

特集

市政

長崎市民

プレゼント

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

若人の熱い夏

①

⑦

⑥

④

⑤

全国規模の高校生の文化の祭典とスポーツの祭典がこの夏、長崎で開催されました。両大会で存分に魅せてくれた、学生のパワーは、見る人を感動の渦に巻き込みました!!今回はその様子を、写真とともに振り返ります。

⑥⑦北部九州総体 (⑥は平泳ぎに出場した増山選手(瓊浦高2年))

①~⑤長崎しおかぜ総文祭総合開会式 (①長崎女子高龍踊り/②ステージ/③歓迎のあいさつをする生徒実行委員長吉村優子さん(長崎西高3年)/④原爆と平和をテーマにした演劇/⑤中国の高校生による伝統舞踊)



全国で初めて開催された「高校生文化祭サミット」部門。全国93校172人の参加者が文化祭のあり方などを議論し、仲間と共に学校文化を創り上げる大切さを確認した。最後は全員で「今長崎(ここ)から!」と声高らかに叫び、想いを一つにした。

13万人が

文化に親しむ

7月31日から8月4日まで、高校生文化の祭典、第37回全国高等学校総合文化祭(2013長崎しおかぜ総文祭)が、長崎県内各地で開催。全国から3438校、2万2131人(引率者含む)が参加し、10万人以上のかたが観覧に訪れました。

県全体では24部門の発表などがありました。その内、長崎市内開催は9部門。器楽・管弦楽や写真、演劇などの文化活動を通して、高校生の若さあふれるパワーと情熱を、会場を訪れたかたへ伝えました。

また、開会式には秋篠宮さまと長女眞子さまが出席されました。秋篠宮さまは「未来への新たな船出として、全国そして海外に高校生の文化力を発信される大会となりますよう期待いたします」と述べられました。

総文祭で見た成長

どの会場でも、非常に目立ったものが自信にあふれた生徒の「笑顔」。観覧者からは「スタッフの生徒の、声かけをする気配りや行動力に感激した」といった声も聞かれました。

小倉百人一首かるた部門に参加した、岡山県の延原穂実さん(玉野光南高2年)は「試合は負けただけ声は出していた。チームがまとまっている

しおかぜ 総文祭



①「芸文」部門では生徒が原爆資料館で平和の尊さを学んだ／②「器楽管弦楽」部門の長崎北・活水・島原高校の合同演奏／③「写真」部門では生徒の感性光る作品が展示／④2,500人が参加したパレード／⑤「新聞」部門の編集作業



会場案内や受け付けの笑顔は最高のおもてなし。「裏方」も会場を訪れる人の目を大いに引いた。



1チーム5人の団体戦で競った「小倉百人一首かるた」部門。札が読まれる瞬間、会場から一切の物音が消え、札を取り合うコマ数秒の戦いが繰り広げられた。



⑥「美術・工芸」部門では生徒が作品を見ながら意見交換を行った／⑦「特別支援学校」部門を訪れた子どもは流し絵を体験／⑧「演劇」部門で瓊浦高校は「南十字星」を演じ、戦争の愚かさや命の大切を訴えた

今がとても楽しい」。器楽・管弦楽部門に参加した、川原秀斗さん（長崎西高2年）は「緊張したけど自分たちらしさが出せた。何よりこんな多くの人に聞いてもらえて幸せだった」。どの生徒に尋ねても、笑顔でいっぱいの様子。会場ではうれし涙を流す人の姿も見られました。

生徒実行委員長吉村優子さんが、開会式あいさつで総文祭を「革命」と表現したように、これまでの活動や多くの出会いが、生徒を成長させ、それが自信につながっていったに違いありません。

5日間にわたって、県内に吹いた爽やかな文化の風。本番を終えてまた成長し、古里に帰った生徒たちが教えてくれたもの、それは何事にも向き合い挑戦することの大切さでした。

北部九州総体

県選手奮闘!!

7月28日から8月20日まで、平成25年度全国高等学校総合体育大会（北部九州総体）が、大分・福岡・佐賀・長崎県で開催され、長崎市内では、水泳（競泳）競技が8月17日から4日間、長崎市民総合プールで行われました。

会場は立ち見客が出るほど連日超満員。ロンドン五輪や世界選手権代表選手をはじめとした、全国屈指の高校生スイマーが、その泳ぎの速さで観客を驚かせていました。

長崎県からは14人の選手が全国の舞台上に臨み、観客やトップスイマーを目指す子どもたちに、夢を与える堂々とした泳ぎを見せてくれました!!



バタフライに出場した安達選手（長崎南山高2年）



力強く選手宣誓をした武次選手（瓊浦高3年・右）と菅選手（諫早商業高3年）

